

ISO/TC 8/SC 2(海洋環境保護分科委員会)担当分

議長: 千田哲也氏((一財)日本船舶技術研究協会)、幹事国: 米国(ANSI)

担当	規格番号	課題	課題(邦訳)	概要	制定等年月日	JIS化の状況
SC2	ISO/AWI PAS 5204	Ships and marine technology — Calibration method for instruments designed to measure oil in discharge water from exhaust gas cleaning systems (EGCS) on ships	EGCSからの排水に含有されるPAHsの濃度を計測する機器の校正方法	<p>本規格は、船上に搭載されるEGCSからの排水に含有されるPAHsの濃度を計測する機器の校正方法を規定する、また、機器の校正に使用される試験サンプルを規定する。さらに、校正のために計測されるPAHの種類を規定する。【英国主導】</p> <p>2020年7月10日を投票期限としてNP投票が終了し、TC 8/SC 2の新規作業項目として承認された。</p> <p>2020年12月9日に開催されたISO/TC8/SC2/WG10において、提案国である英国から本件の開発主旨が説明されたが、依然として初期原案が提出されていないため、早期の原案提出の必要性がWG内で共有された。</p> <p>この結果、開発期限が近づいていることもあり、本件をプロジェクトから削除し、適用範囲を変更のうえ再提案することの是非について、TC 8/SC 2の中で投票が行われたが、特段の異議は確認されなかった。</p>	2020.07.10 NP投票承認	プロジェクト削除の準備中
SC2	ISO/AWI 6319	Ships and marine technology — Marine environment protection — Methods for performance and documentation of proactive hull cleaning	船舶及び海洋技術 - 海洋環境保護 - プロアクティブな船体洗浄の実施と文書化の方法	<p>本規格案は、船体汚損が拡大する前に実施するタイプの船体洗浄(プロアクティブな船体洗浄)の標準的手法を取り纏めたもの。ノルウェーの提案として、2023年1月にNP投票が承認された。同国を座長とするWG 13(船体汚損の水中洗浄)にて、審議を行う。</p> <p>数回のウェブ会議にて、以下のような多数の意見があり、原案作成に進めずにいる。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 既存のプロアクティブに関する規則・標準に則した ISO を求める。 □ ニッチエリアは除くべき。 □ 余り広く複雑化したスタンダードにしない方がいい(現行の SCOPE)。別々の規格にした方がいいだろう。 □ 現 SCOPE を修正し、範囲が膨大になるようであれば、例えばパート制の規格にしたらどうか？ □ 水中洗浄で生じる剥離物等を捕捉する場合(以降、Capture と表記)としない場合について、別々の規格で対応することが望ましい。 □ 様々な手法があるが、それはパート制で検討すべき。 □ Biofouling の測定手法(特にプロアクティブな洗浄では、マイクロファウリングを対象とするため)を入れるべき。 □ 洗浄水処理のメカニズムを考慮してほしい。また、リアクティブな水中洗浄も含めて欲しい。 □ 既存の Capture 技術が排除されないように、含めて欲しい。 □ フレームワークの規格にすべき: いづプロアクティブな水中洗浄をするか、洗浄水処理を必要とする判断をどうするのか？ □ プロアクティブもリアクティブも、同じ規格にすべし。 <p>6月27-29日にオスロでハイブリッド会議が開催された。</p>	2023.01.26 NP投票承認	—
SC2	ISO 13073-1:2012	Ships and marine technology - Risk assessment on anti-fouling systems on ships -- Part 1: Marine environmental risk assessment method of biocidally active substances used for anti-fouling systems on ships	船舶及び海洋技術 - 船舶の防汚方法に関するリスク評価 - 第1部: 船舶の防汚方法に用いる殺生物性活性物質の海洋環境リスク評価法	<p>船舶に使用される防汚システムで意図的に使われている殺生物性活性物質による潜在的悪影響から海洋環境を保護するためのリスク評価法について取り纏めたもの。【日本主導】</p>	2012.08.01.	JIS F 0600-1 (IDT)

SC2	ISO 13073-2:2013	Ships and marine technology -- Risk assessment on anti-fouling systems on ships -- Part 2: Marine environmental risk assessment method for anti-fouling systems on ships using biocidally active substances	船舶及び海洋技術－船舶の防汚方法に関するリスク評価－第2部：殺生物性活性物質を用いた船舶の防汚方法の海洋環境リスク評価法	船舶に使用される殺生物性活性物質を含む防汚システム(防汚塗料等)による潜在的悪影響から海洋環境を保護するためのリスク評価法について取り纏めたもの。【日本主導】	2013.06.01.	JIS F 0600-2 (IDT)
SC2	ISO 13073-3:2016	Ships and marine technology -- Risk assessment on anti-fouling systems on ships -- Part 3: Human Health risk assessment for the application and removal of anti-fouling systems	船舶及び海洋技術－船舶の防汚方法に関するリスク評価－第3部：殺生物性活性物質が用いられた船舶の防汚方法の塗装及び除去作業における人健康リスク評価法	船舶の防汚塗料に用いられる殺生物性活性物質によって、塗装作業者が被ばくするリスクがある場合で、同物質を含む塗料製品を用いることができると判断するためのリスク評価法について取り纏めたもの。専門家あるいはアマチュアの労働者へ与える影響の測定にこのリスク評価を用いることができる。ただし、危険及び毒性の評価のための特定の試験方法はこの規格では定めておらず、物質の使用制限等の推奨してはいない。【日本主導】	2016.06.01	—
SC2	ISO 13617:2001	Ships and marine technology - Shipboard incinerators - Requirements	船舶及び海洋構造物－船上焼却炉の要件	船舶の通常業務に伴って発生するガベージやその他の船内廃物(MARPOL条約附属書Ⅱ又はⅢにより定義された物質で汚れた貨物関連廃物を除く。)を焼却する焼却装置の設計、製造、性能、運転、機能及び試験について取り纏めたもの。	2001.11	JIS F 7011:1998 (NEQ)
SC2 (SC3から移管)	ISO 13617:2019	Ships and marine technology - Shipboard incinerators - Requirements	船舶及び海洋構造物－船上焼却炉の要件	船舶の通常業務に伴って発生するガベージやその他の船内廃物(MARPOL条約附属書Ⅱ又はⅢにより定義された物質で汚れた貨物関連廃物を除く。)を焼却する焼却装置の設計、製造、性能、運転、機能及び試験について取りまとめたもの。 改正作業に着手。SC3(配管及び機械分科委員会)から移管。 2019年7月8日を投票期限としたFDIS投票は全面賛成で可決され、同年8月に本規格は改訂された。	2019.08	—
SC2	ISO 16165:2020	Ships and marine technology -- Marine environment protection -- Terminology relating to oil spill response	船舶及び海洋技術－海洋環境保護－油流出への対応に関する用語	油流出とその管理に関する用語および定義を取り纏めたもの。 ISO/TC8/SC2/WG3(油流出対応作業委員会)ハンブルク会議(2019年3月)にて、参考文献を修正する必要性が指摘された。この指摘を受け、ISO/TC 8/SC 2京都総会(2019年5月)にて、小改訂のためのFDIS投票を実施するための決議が採択された。 2020年3月2日を投票期限としたFDIS投票では、小改訂に関して大多数が賛成したため、2020年4月に改訂版が発行された。	2020.04	—
SC2	ISO 16304:2018	Ships and marine technology -- Marine environment protection -- Arrangement and management of port waste reception facilities	船舶及び海洋技術－海洋環境保護－港湾廃棄物受入施設の配置及び管理	MARPOL条約により規制を受ける船内発生廃棄物であって港湾・ターミナルに陸揚げされるものの管理について取り纏めたもので、港湾廃棄物管理計画(PWMP)作成、同計画の実施及び港湾受入施設の運用において考慮すべき原則や問題についても記述している。 2013年1月1日に発効したMARPOL条約改正附属書Ⅵに準拠した形で改訂を行った。	2018.08.29.	—
SC2	ISO 16446:2013	Ships and marine technology -- Marine environmental protection -- Adaptor for joining dissimilar boom connectors	船舶及び海洋技術－海洋環境保護－異種のコネクターを備え付けたブームを連結するためのアダプター	標準的アダプターを介して種類の異なるコネクターを備えた流出油封じ込め用ブームの統一的な結合方法について取り纏めたもの。	2013.04.01.	—
SC2	ISO 17325-1:2014	Ships and marine technology -- Marine environment protection -- Oil booms -- Part 1: Design requirements	船舶及び海洋技術－海洋環境保護－オイルブーム－第1部：設計要件	オイルフェンスの基本設計、一般的な機能、表示方法を取りまとめたもの。この規格はユーザーによる製造業者選択に役立つことを目的としており、製造業者が提供すべきオイルフェンスの材料、設計及び性能の最小限の要件を記載している。ただし、安全関係への取り組み及びオイルフェンスの操作手順は定めていない。	2014.04.18 定期見直し投票終了 2019.09.02 確認 (現状維持)	—

SC2	ISO 17325-2:2014	Ships and marine technology -- marine environment protection - Oil booms -- Part 2: Strength and performance requirements	船舶及び海洋技術－海洋環境保護－オイルブーム－第2部：強度及び性能に関する要求事項	ISO17325-1に加え、オイルブームの強度及び性能要件並びに関連する試験方法を取り纏めたもの。オイルブームの使用における安全要件については記載されていない。 2020年3月2日〆切の定期見直し投票では、確認(現状維持)の回答が多く、改訂又は廃止の要望は無かった。	2014.10.15 定期見直し投票終了 2020.03.03 確認(現状維持)	—
SC2	ISO 17325-3:2018	Ships and marine technology -- marine environment protection - Oil booms -- Part 3: End connectors	船舶及び海洋技術－海洋環境保護－オイルブーム－第3部：エンドコネクタ	水上における油の流出を防止するためのオイルブームの連結に関する最低限の基準を取り纏めたもの。なお、配置に関する制限は設けない。	2018.09.25	—
SC2	ISO 17325-4:2018	Ships and marine technology -- marine environment protection - Oil booms -- Part 4: Auxiliary Equipments	船舶及び海洋技術－海洋環境保護－オイルブーム－第4部：周辺器具	オイルブームの設置に必要な周辺機器の設計、配置及び適用について取り纏めたもの。	2018.09.18	—
SC2	ISO 18309:2014	Ships and marine technology -- Incinerator sizing and selection -- Guidelines	船舶及び海洋技術－船内焼却炉の寸法及び選定－指針	ISO13617の関連文書として、船内焼却炉購入の選定を助ける選定基準を取り纏めたもの。化学物質、産業廃棄物などを焼却する特別焼却船における焼却システムには適用されない。 2020年3月2日〆切の定期見直し投票では、確認(現状維持)の回答が多く、改訂又は廃止の要望は無かった。	2014.10.15 定期見直し投票終了 2020.03.03 確認(現状維持)	—
SC2	ISO 18611-1:2014	Ships and marine technology－ Marine SCR applications－ NOx reduction agent AUS 40: - Part 1: Quality requirements	船舶及び海洋技術－海洋環境保護－SCR用NOx還元剤AUS40－第1部：品質に関する要求事項	エンジン排ガス処理のためのSCRに使用するNOx還元剤AUS40(尿素溶液)の品質特性について取り纏めるもの。 2019年12月2日〆切の定期見直し投票の結果、スウェーデンのみ、改訂・追補の回答。日本は含む大半のメンバー国は、「確認(現状維持)」の回答。	2014.10.03 定期見直し投票終了 2019.12.02 確認(現状維持)	—
SC2	ISO 18611-2:2014	Ships and marine technology -- Marine SCR applications－ NOx reduction agent AUS 40: - Part 2: Test methods	船舶及び海洋技術－海洋環境保護－SCR用NOx還元剤AUS40－第2部：試験方法	NOx還元剤AUS40(尿素溶液)の品質特性の決定に必要な試験方法について取り纏めるもの。 2019年12月2日〆切の定期見直し投票の結果、改訂・追補の回答は無し。日本は含む大半のメンバー国は、「確認(現状維持)」の回答。	2014.10.03 定期見直し投票終了 2019.12.02 確認(現状維持)	—
SC2	ISO 18611-3:2014	Ships and marine technology -- Marine SCR applications－ NOx reduction agent AUS 40: - Part 3: Handling, transportation and storage	船舶及び海洋技術－海洋環境保護－SCR用NOx還元剤AUS40－第3部：取扱い、輸送及び保管	NOx還元剤AUS40(尿素溶液)の取扱い、輸送及び貯蔵を最適に実施するための要求事項及び推奨事項を取り纏めるもの。 2019年12月2日〆切の定期見直し投票の結果、改訂・追補の回答は無し。日本は含む大半のメンバー国は、「確認(現状維持)」の回答。	2014.10.03 定期見直し投票終了 2019.12.02 確認(現状維持)	—
SC2	ISO 19030-1:2016	Ships and marine technology－ Measurement of changes in hull and propeller performance－ Part 1: General principles	船舶及び海洋技術－船体及びプロペラ性能変化の測定－第1部：一般要件	船体及びプロペラ性能の変化の測定に関する一般事項を取り纏めるもの。 本規格の目的を達成するに当たり、次の事項を規定する。 －船体及びプロペラ(水中における)性能の定義 －船体推進効率と船体への総抵抗の関連性 －船体及びプロペラ性能の変化測定時における適切な測定パラメータ －データ取得手順 －測定の不確かさの主な要因	2016.11.15	—
SC2	ISO 19030-2:2016	Ships and marine technology－ Measurement of changes in hull and propeller performance－ Part 2: Default method	船舶及び海洋技術－船体及びプロペラ性能変化の測定－第2部：標準手法	船体及びプロペラ効率の経時変化測定並びに基本性能指標を用いた計算の標準手法について取りまとめたもの。	2016.11.15	—

SC2	ISO 19030-3:2016	Ships and marine technology – Measurement of changes in hull and propeller performance – Part 3: Alternative method	船舶及び海洋技術—船体及びプロペラ性能変化の測定—第3部:代替手法	ISO19030-2で取りまとめた手法を実践できない場合の代替手法について取り纏めたもの。	2016.11.15	—
SC2	ISO 20053:2017	Ships and marine technology - Marine environment protection - Guidance on design and selection of sorbents	船舶及び海洋技術—海洋環境保護—油吸着材の設計及び選定指針	水上で用いられる油吸着材の基本設計、一般的な機能等について取り纏めたもの。また、製造者から供給される油吸着材の選定基準、材料、設計及び性能についての最低要件を取り纏めている。	2017.07	—
SC2	ISO 20083-2:2019	Ships and marine technology -Shaft power measurement for ship propulsion system -- Part 2: Optical reflection method	船舶及び海洋技術—船舶推進システムの軸出力計測—第2部:光反射式軸馬力計	光源、反射版及びフォトセンサー等で構成される光学式軸馬力計の技術要件及び校正手順を取り纏めたもの。【日本主導】 2019年6月に正式なISO規格として制定された。また、規格制定に伴い、本件の規格開発を行ったISO/TC 8/SC 2/WG 8を休眠状態とすることが、2019年5月開催のISO/TC 8/SC 2京都総会で承認された。	2019.06	—
SC2	ISO 20083-3:2019	Ships and marine technology -- Marine environment protection -- Part 3: Shaft power measurement for ship propulsion system -- Part 3: Elastic strip vibration method	船舶及び海洋技術—船舶推進システムの軸出力計測—第3部:振動膜式軸馬力計	振動膜式軸馬力計の一般要件及び機器の構成並びに計測精度を決定する要素について取り纏めたもの。【日本主導】 2019年6月に正式なISO規格として制定された。また、規格制定に伴い、本件の規格開発を行ったISO/TC 8/SC 2/WG 8を休眠状態とすることが、2019年5月開催のISO/TC 8/SC 2京都総会で承認された。	2019.06	—
SC2	ISO/AWI 20679	Ships and marine technology — Marine environment protection — Guidelines for Testing Ship Biofouling In-Water Cleaning Systems	船舶及び海洋技術—海洋環境保護—船舶の生物付着試験に関するガイドライン 水中洗浄システム	プロアクティブ・リアクティブの両方を含めた、船体表面の水中洗浄システムの性能試験・手順を定めることを目的としている。米国の提案として、2023年4月にNP投票が承認された。ISO 6319と同様、WG 13(船体汚損の水中洗浄)にて、審議を行う。2023年6月21日のWG 13ウェブ会議では、規定する項目の枠組みに関する意見交換が行われたほか、今後のスケジュールが共有された。プロジェクト・リーダー(米国)は、2024年春頃に技術的事項を概ね固める意向としており、そのため、7月にはWG内での意見照会をするほか、8月にウェブ会議、11月に2日間の対面会議を行う予定となった。	2023.04.12 NP投票承認	—
SC2	ISO 21070:2017	Ships and marine technology -- Marine environment protection -- Management and handling of shipboard garbage	船舶及び海洋技術--海洋環境保護--船上ごみの管理および取り扱い	船上ごみの取り扱い、収集、分別、表示、処理および貯蔵などに関する手順をとりまとめたもの。船陸間のインターフェースおよび船から陸側の受け取り施設への運搬についても記載されている。本規格案のごみの定義はMARPOL Annex Vと同様である。	2017.1	—
SC2	ISO 21070:2017/Amd 1:2022	Ships and marine technology — Marine environment protection — Management and handling of shipboard garbage — Amendment 1: Updates to classification of garbage	船舶及び海洋技術--海洋環境保護--船上ごみの管理および取り扱い(追補1)	MARPOL Annex Vの改正に合わせた追補。	2022.07	—
SC2	ISO 21072-2:2020	Ships and marine technology -- Marine environment protection: performance testing of oil skimmers - Part 2: Light and medium viscosity oil	船舶及び海洋技術—海洋環境保護—油回収装置(オイルスキマー)の性能試験--第2部:軽粘度及び中粘度の油	オイルスキマーの性能をエンドユーザーが客観的に判断・比較・評価するのに資するため、オイルスキマーの静水条件下での性能に関する定量的性能データを取得するための方法について取り纏めたもの。 2020年6月8日を投票期限として実施された。規格名称を「...第2部:軽粘度及び中粘度の油」に小改訂するための投票が承認され、同月に改訂された。	2020.06	—
SC2	ISO 21072-3:2020	Ships and marine technology -- Marine environment protection: performance testing of oil skimmers - Part 3: High Velocity Oil	船舶及び海洋技術—海洋環境保護—油回収装置(オイルスキマー)の性能試験—第3部:高粘度の油	オイルスキマーの性能をエンドユーザーが客観的に判断・比較・評価するのに資するため、高粘度の油の回収性能に関する定量的性能データを取得するための方法について取り纏めたもの。 本件を審議するISO/TC8/SC2/WG3(油流出対応)にて、中国が小改訂を要望した。これに伴い、2020年8月21日を投票期限として実施されたFDIS投票が承認され、同年9月に改訂された。	2020.09	—

SC2	ISO 21716-1:2020	Ships and marine technology – Bioassay methods for screening anti-fouling paints -Part 1: General requirements	船舶及び海洋技術－防汚塗料の生物検定スクリーニング手法－第1部：一般要件	船体付着生物の越境を防ぐために船舶に使用される防汚塗料の性能評価試験の共通的な要求事項を取り纏めたもの。【日本主導】 2020年12月に制定された。	2020.12	－
SC2	ISO 21716-2:2020	Ships and marine technology – Bioassay methods for screening anti-fouling paints -Part 2: Barnacles	船舶及び海洋技術－防汚塗料の生物検定スクリーニング手法－第2部：フジツボ	フロースルーシステムを適用して、フジツボを用いた防汚塗料の性能を評価する方法を取り纏めたもの。【日本主導】 2020年12月に制定された。	2020.12	－
SC2	ISO 21716-3:2020	Ships and marine technology – Bioassay methods for screening anti-fouling paints -Part 3: Mussels	船舶及び海洋技術－防汚塗料の生物検定スクリーニング手法－第3部：ムラサキガイ	フロースルーシステムを適用して、ムラサキガイを用いた防汚塗料の性能を評価する方法を取り纏めたもの。【日本主導】 2020年12月に制定された。	2020.12	－
SC2	ISO 21963:2020	Ships and marine technology -- Marine environment protection -- Tank and piping system for facilitating oily water separation on fixed offshore marine structures	海洋環境に資する油水分離器を最適化するためのタンク及び配管の設計	船舶、海洋プラットフォーム及び海洋構造物の運用時に発生する汚水の油水分離を最適化するためのタンク、配管及び分離システムの設計について取り纏めたもの。	2020.09	－
SC2	ISO 23048:2018	Ships and marine technology -- Verification method for portable power measurement using strain gauge	船舶及び海洋技術－ひずみゲージ式軸馬力計の校正手法	燃料消費等を計測する、ひずみゲージ式軸馬力計の校正手法について規定したもの。 【補足】TC 8/SC 2ペイントン総会(2017年6月)において、本ISO規格はISO 20083-2及び-3と主旨が異なるため(※1)、シリーズではなく単独規格とするための提案があった。この提案に伴い、本規格を単独規格とするため、番号及び名称を変更する手続きが取られることとなった。 ISO 20083-1(現ISO 23048)は、校正手法を主眼としている一方、ISO 20083-2及び-3は、機器そのものについて規定している。	2018.07.04	－
SC2	ISO 23668:2022	Ships and marine technology – Marine environment protection-- Continuous on-board pH monitoring method	船舶及び海洋技術－海洋環境保護－船上のpH連続監視手法	エンジン排ガス中の硫黄酸化物(SO _x)を低減するための船上の排ガス洗浄システム(EGCS)に使われる複合電極を用いた水素イオン濃度(pH)の連続監視装置の性能要件及び試験方法を取りまとめたもの【日本主導】。	2022.11	－
SC2	ISO 23765:2021	Ships and marine technology -- Marine environment protection -- Guidelines for a method of collecting ship's fuel oil consumption data	船舶及び海洋技術－船舶の燃料油消費量データの収集方法のためのガイドライン	MARPOL条約附属書VIの22A規則の要件に従って、総トン数5,000トン以上の船舶のデータを収集するためのガイドラインを規定する。航行距離、停泊していない時間、燃料油消費量の計測といったデータの収集のための実用的な手法がこの規格において明記される。	2021.12	－
SC2	ISO 24132	Ships and marine technology — Design and testing of marine transfer arms for liquefied hydrogen	船舶及び海洋技術－液化水素用海洋トランスファーアームの設計と試験	液化水素運搬船を扱う沿岸液化水素ターミナルで使用される液化水素用海洋トランスファーアーム(ローディングアーム)に関する設計、安全のための最小限の要件、検査及び試験方法について取り纏めたもの。[日本主導]	制定前の校正中	－
SC2	ISO/PRF 24146-1	Ships and marine technology -- Marine environment protection -- Part 1: Management and handling of shipboard waste on inland vessels	船舶及び海洋技術－海洋環境保護－第1部：内陸航行船の船上で発生する廃棄物の管理と取り扱い	内陸航行船の船上で発生するゴミの管理の手順について取り纏めている(取り扱い、収集、分別、マーキング、処置及び貯蔵)。【オランダ主導】 12月20日投票期限のDIS投票は、1件の反対を除き賛成多数で承認された(日本は賛成回答)。	制定前の校正中	－